

JIA 建築家大会 2023 東海 in 常滑

International Presidents' Forum 2023

2023年11月10日 9:30~11:30 旧丸利陶管F棟

竹馬大二
(国際委員長)



ぞうらく
蔵楽友美
(国際委員)



International Presidents' Forum 2023の概要

竹馬大二

International Presidents' Forum (IPF) はJIAの提携協会であるAIA (アメリカ建築家協会)、ASA (タイ王立建築家協会)、KIRA (大韓建築士協会)、KIA (韓国建築家協会)の会長等を招いてJIA建築家大会に併せて行う国際会議である。今年度は、下記の6名を招待し、JIA建築家大会2023東海in常滑の大会2日目の11月10日(金)9:30~11:30の日程で行った。

- 1) サンパラン・チャナASA会長
- 2) オウ・ドンヒKIRA会長代理
- 3) チョン・ウィヨンKIA会長
- 4) タン・メルビンSIA (シンガポール建築家協会) 会長
- 5) チェン・ユキAIA 国際支部次期会長
- 6) 矢口哲也AIA 日本支部会長

残念ながらAIA会長は参加が叶わなかったが、AIA国際支部の次期会長とAIA日本支部の会長が参加して下さった。ホスト側からは佐藤尚巳JIA会長と司会役として私が参加した。

会場は後に詳述するが、常滑の陶管工場であった旧丸利陶管の一部をお借りして、大会のテーマである「廻る」に沿ったユニークな空間で膝を突き合わせる親密な会議を行うことができた。会場選定は非常に重要で実現のためにご尽力いただいた東海支部のご担当のみなさまに感謝申し上げます。

会議はパネルディスカッション形式とし、以下の事前質問の回答をもとに意見交換を行った。

「建築家の認知度とその向上について」

- Q1a. あなたの国の建築家は市民にどのように認知されていますか？
- Q1b. 上記について建築家の願望と市民の受け止め方にギャップはありますか？
- Q1c. 最近、建築家の認知のされ方に変化はありましたか、あるとすればその原因は何ですか。
- Q2. 建築家の職能的評価を高めるために、貴協会はどのような措置を講じていますか。

この質問を投げかけたのは、各国の状況や対策のヒアリングを行うことで、日本での建築家の認知度や職能的評価の向上、

さらに「頼りになるJIA」を実現する参考にするためである。また、若い世代に建築家の職業的な魅力をどのように訴求すればよいかということを探るためでもあった。以下に各国のプレゼンテーションの概要を報告する。

●ASA(タイ王立建築家協会)

他国も同様だと思うが、建築家の職能を社会に認知させるのは難しいと感じている。本テーマに関するASAの活動としては、建築家の専門領域(ユニバーサルデザイン、医療福祉デザイン、省エネ、音響、照明、FM、積算、防災、建材、保存再生など)の認定資格を授与し建築家のコンピテンスの認知に努めていることを紹介したい。また、さまざまな建築賞の授与や入場者数が40万人に上るASA主催の建築展を毎年開催し、ASA自身の認知度向上に努めている。

●KIRA(大韓建築士協会)

登録建築家数、事業規模、収益など設計事務所の事業性を示す統計の分析、SNSによる広報効果の調査やネットでの検索キーワードの推移を調べて一般社会の建築に対する興味の変化をモニター(2018-2019)した。さらに、建築家の認知度向上のために建築設計のTV番組の制作協力やソウル国際建築映画祭の主催(2009年から)を行っている。また、第三者による建築設計や都市計画に対する助言やレビューを行う公共建築家(Public Architect)システムの法制化を関係省庁とともに行った(2007年より施行)。2018年よりコミュニティー建築家制度をソウル市で発足させ、さらに2022年にはすべての建築家資格保持者のKIRAへの所属義務を法制化させ職能団体としての基盤を固めた。なお、KIRAは韓国の国土交通省傘下の団体である。

●KIA(韓国建築家協会)

KIAは韓国の文化・スポーツ・観光省傘下の団体であり、建築を文化や芸術の側面でプロモートしている。KIAでは2019年に民間専門家システム(Civilian Expert System: City ArchitectとMaster Planner)のガイドラインを作成し建築と都市計画のデザイン指針などについて助言し、前述の公共建築家システムを補完する役割を構築した。また、建築芸術のプロモーションのためのアーカイブ構築、各種展示会の主催やArchitecture Day(建築記念日)と称したイベントを行い建築設計の認知度向上に努めている。



チャナ会長と常滑のまちを歩く佐藤会長



会場となった旧丸利陶管



右からオウ会長代理、チョン会長、メルビン会長、太田隆信氏と六鹿正治氏も加わっての集合写真



ユキ次期会長、矢口会長

● SIA (シンガポール建築家協会)

シンガポールが直面している問題は、建築家として設計事務所活動を続ける若者が非常に少ないことである。最近の統計では意匠系の卒業生の約45%が5年間程度は設計事務所にとどまるが、それ以上設計活動を継続するのは7%にまで落ちているのである。そのためSIAでは各種メディアと連携して、建築家個人の生き様やその仕事ぶり、サステナビリティやヘリテージといった分野での貢献、次世代建築家のプロモーションを行っている。また、サービスとその対価・価値の明確化を行うVAF (Value Articulation Framework) の手法を取り入れ、設計料の合理性と必然性をクライアントに訴えるガイドラインを作成している。

● AIA (米国建築家協会)

米国の状況についてはAIA日本支部の矢口会長のプレゼンテーションを中心に紹介させていただく。米国の建築家資格登録評議会はAXP (Architectural Experience Program) という若手建築家のためのプログラムを提供し建築家になるための技能の習得を促している。AIAにおいても建築家の倫理規定の法制化(カ

リフォルニア州)や市民建築家のハンドブック頒布、EDI (Equity, Diversity, Inclusion & Belonging: 公平性、多様性、包括性と帰属意識)という文化の醸成を促進することなどを通して建築家と社会の関わりを建築家に意識させることを試みている。

● JIA (日本建築家協会)

多くの建築家がコミュニティーのために活動しているのにもかかわらず、それが社会に認められていないのではないかと感じざるを得ない。そのために、JIAは「頼りになる建築家」をプロモートし、また、登録建築家制度を設立し「建築士」ではなく「建築家」の職能を社会に認知すべく活動している。

ここまでの各氏のプレゼンテーションの概要で、示唆に富んだナレッジの共有が行われたことがIPFの成果であったと願いたい。残念ながら誌面の都合上報告は以上とさせていただきますが、このテーマは別府での2024年の建築家大会でも継続して議論を深めていきたいと思っているので、IPFでの議論に参加されたい会員の皆さまは国際委員会 (jiacontact@jia.or.jp) までご一報ください。

■ International Presidents' Forum 2023の会場設営

葦楽友美

International Presidents' Forum (IPF) は、JIA会長が海外の建築家協会の会長たちを招いて会議をする年に一度の機会です。会議のスタイルは「こうでなければならぬ」という決まりはなく柔軟です。本年も大会テーマ「還る」との関連や会長のお考えをうかがいながら国際委員会でご企画を進めました。

昨年度の沖縄大会では、保存修復の専門家らのレクチャーおよび会長たちのディスカッションの2部構成とし、同時通訳付きのライブ配信を行いました。「全国のJIA会員にJIAの国際活動を広く知っていただけるように」が昨年のコンセプトでした。日英両言語のアーカイブ動画は現在も視聴可能で、日本語版の動画はJIA WebセミナーのCPD 2単位対象となっており、国際委員会の動画コンテンツの中では最も再生数が伸びています。

本年度の常滑大会では、佐藤尚巳会長がご就任以来UIA・アルカジアの国際会議や提携する建築家協会の大会へひと通り参加されたご経験をふまえてのIPFとして、参加者に向けたレクチャーの形式ではなく、会長同士の対話がより深くできる形を模索しました。スピーカーだけではなく会場の参加者にも参加意識が感じられる場をつくりたいという方針が佐藤会長から示され、国際委員会では、司会とスピーカーが円座となる会場レイアウトを検討しました。東海支部の実行委員会のご尽力によ

り使わせていただけることとなった「旧丸利陶管」の家屋は、目指す方向にぴったりと合うサイズ感で円座の配置がうまくまりました。場の中心に木造家屋の柱が入るユニークさ、土間と板間の段差効果ですり鉢状の一体感も生まれ、常滑の風景が近くに感じられる唯一無二の場所で親密な空気感のIPFを行うことができました。この親密さは会議そのものだけでなくウェルカムパーティーや式典等の一連の大会プログラムに参加されるゲストに同行し、更にやきもの散歩道や有松地区の散歩等の企画を準備実行したゲスト接遇班の貢献も大きかったと感じます。

国際委員会メンバーは全国各地に居住しているため現地事前視察の機会が限られており、東海支部実行委員会より会場の詳細やアクセスについて動画や写真での情報共有が大変助かりました。関係者の皆様に感謝申し上げます。

国際委員会 IPF 企画チーム

- 統括：竹馬大二 (関東甲信越)
- 統括補佐：早矢仕アレマン耕平 (東海)
- 会場設営：水本浩二 (九州)・葦楽友美 (関東甲信越)
- ゲスト接遇：伊藤友紀・新井今日子 (関東甲信越)・永野ますみ (東北)・比嘉俊一 (沖縄)
- 事務局：羽山恵 (本部)

東海支部実行委員会

浅井裕雄大会実行委員長・奥野美樹・西村和哉・柳澤力



会議の様子 司会とスピーカーが円座に



参加者全員が参加意識を感じられる会場



会場レイアウト